

令和6年度 指定管理者モニタリング結果及び評価シート

評価期間 令和6年4月1日 令和7年3月31日

施設状況

施設名称	ふじみ野市立介護予防センター	所管課	高齢福祉課
指定管理者名	社会福祉法人 奉優会	施設分類	保健・福祉施設
指定期間	令和4年4月1日～ 令和9年3月31日	利用料金制導入	一部利用料金制（利用料金及び指定管理料）
導入年月日	平成31年4月1日	指定回数	2回
施設設置目的	全ての世代を対象とした地域包括支援体制を構築し、高齢者の介護予防並びに市民の福祉の増進及び福祉意識の高揚を図ることを目的としている。		
施設概要	旧かみふくおか西デイサービスセンターの閉所後、平成31年4月に介護予防センターがオープンした。介護予防センターは、ふじみ野市の介護予防の拠点ならびに市民の福祉の増進及び福祉意識の高揚を図るため、様々な事業や情報発信を行う。		
管理運営の基本方針	(1) 高齢者の介護予防並びに市民の福祉の増進及び福祉意識の高揚を図るため、地域との連携に寄与できるよう管理運営を行うこと。 (2) 公の施設として、その利用に際して平等かつ公平な管理・運営を行うこと。 (3) 質の高いサービスの提供と効率的な業務の執行により、施設の特性を最大限活用できるよう、創意工夫に基づく効果的な管理運営を目指すこと。 (4) 地域住民や利用者の意見・要望等を真摯に受け止め、利用者サービスの向上に努め、施設の利用促進を図ること。 (5) 施設・設備の内容を十分に把握したうえで、すべての施設・設備を清潔かつその機能を正常に保持し、施設利用者に快適で安全な利用を供することができるよう適正な維持管理を行うこと。 (6) 個人情報の保護や各種法令遵守を徹底するほか、危機管理意識に基づく健全かつ安全な業務執行を図ること。 (7) 管理運営費の節減に努めること。		
指定管理者の主な業務	(1) 介護予防センターの事業の実施に関すること。 ①介護予防ホール、機能訓練室、栄養改善室、交流活動室及びこれらの附属設備の利用に関すること。 ②介護予防の情報提供及び普及啓発に関すること。 ③介護予防地域活動のサポートに関すること。 ④認知症家族介護支援に関すること。 ⑤高齢者の生きがい活動支援に関すること。 ⑥世代間の交流促進に関すること。 ⑦その他、介護予防センターの設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。 (2) 介護予防センターの施設及び設備の維持管理に関する業務(施設全体) (3) 自主事業に関すること。 (4) その他、ふじみ野市立介護予防センター仕様書に記載する業務		

評価項目

- 【評価基準】
- 5：指定管理者のノウハウや努力等により、要求水準を大きく上回っている場合
 - 4：要求水準を上回っている場合
 - 3：要求水準を満たしている場合
 - 2：要求水準を下回っている場合
 - 1：要求水準を大きく下回る場合（改善指導が必要）

1 施設の設置目的の達成に関する取組

施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか		評価
管理運営状況	運営6年目の介護予防センターは、介護予防の拠点として介護予防の普及啓発及び情報発信、介護予防に関する講座等の事業展開や高齢者の居場所の創出等の観点から管理運営を行った。	4
区分	具体的な取組の状況・実績	
介護予防の拠点	令和6年度の新規登録者259名（前年比40%増）、利用者総数35,752名（前年比6%増）と増加。特に男性の利用率が増加し、多様な層への介護予防の普及が進んだ。安全面に配慮しつつ、創意工夫を重ねることで、地域における介護予防の中核的な拠点としての役割を果たすことができた。	
介護予防事業の実施及び情報発信	市指定事業21種1,501回、自主事業57種483回実施。ふじみんびんしゃん体操をはじめとする専門職等による介護予防事業や医師会協力による介護予防普及啓発事業、災害対策時に役立つスマホ講座や季節ごとの事業など多岐にわたる事業を展開した。	
高齢者の居場所の創出	利用者による館内装飾事業を4種開催（介ボラ対象事業）し、季節やイベントに合わせた飾りの作成から装飾をお手伝いいただいた。菜園ボランティアは年間48回延べ334名が参加、育てた野菜の販売会やラベンダースティック作り、ボランティア体験会の実施等、利用者主体の取組みを通して高齢者の居場所づくりに貢献した。	

2 指定管理者の健全性

団体の財務状況や組織体制は安定していて、施設管理を継続的、安定的に行うことができるか		評価
外部専門家からの指摘事項の概要	自己資本比率は58.2%で良好。前年より上昇している。前期から引き続き、収益、利益ともに、順調に推移。連続して黒字。	3
その他特記事項	社会福祉法人として安定的な財務状況および組織体制が構築できている。また、法人は令和6年度に介護予防センター類似施設を25事業所運営しており、施設管理ノウハウを水平展開し、継続的・安定的に行うことができている。	

3 施設の有効活用

施設利用状況	利用区分等		予定（計画・目標） 単位		利用実績 単位		対前年比	年度目標達成率	評価	
	新規登録者数		230 人		259 人		141.5%	112.6%		
	施設利用者数		35,000 人		35,752 人		106.7%	102.1%		
	機能訓練室利用者数 (特記事項)		6,000 人		6,685 人		95.1%	111.4%		
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案			追加事業、未実施事業及びその理由					
	市指定事業	医師会・歯科医師会ミニ講座、介護予防フェスティバル(ワクワクウキウキセンター祭り)、オレンジフェスティバル、介護予防講演会、ふじみんびんしゃん体操(オンライン含む)、お口びんしゃん体操、ふじみんびんしゃん体操ロング、足腰しっかり運動教室、筋力向上トレーニング(腰痛膝痛予防講座)、ウォーキング教室、尿失禁予防教室、オンライン健康講座、ファイブ・コグテスト、脳活性トレーニング教室、ふじみんびんしゃん体操サポーターの受け入れ、低栄養予防教室、男性向け調理教室、栄養講座、体力測定会、リハビリ・トレーニング相談、栄養・食事相談、健康相談、ふじみん介護予防手帳普及啓発事業、機能訓練室初回講習会、機能訓練室フォローアップ講習会、通所型サービスC			追加事業	骨盤底筋トレーニング教室(尿失禁予防教室)、看護師講話、足腰ラクラク体操(足腰しっかり運動教室)、やさしい体操				
		自主事業	多世代交流食堂、コンサート、子ども大人も昔遊び、納涼祭、盆踊り練習会、センター見学会、機能訓練室サポートボランティア養成講座、菜園、ふじみん食堂運営ボランティア養成講座、お昼の体操、ヨガ教室、太極拳、スローエアロビック、歌広場、オンラインボイストレーニング、たのしい小物づくり、通所型サービスC同窓会、ボランティアマッチングシステム YELL、美容講座、終活講座、映画鑑賞会、ぬり絵講座、おりがみ講座、飾りつけ、年末年越しそばイベント、eスポーツ、スポーツ吹矢、マグネット吹矢、交流日、自宅のできる脳トレ、中国語講座、スマートフォン講座			未実施事業	オレンジフェスティバル、ふじみんびんしゃん体操ロング、ウォーキング教室			
利用サービス向上の取組	<p>【代替・追加事業】</p> <p>人生会議、朝活、ラベンダースティックづくり、空手ピクス、写経の会、年忘れ出前落語会モルックで遊ぼう！、男性もモルックで遊ぼう！、じゃがいも販売会、みんなでひなまつり料理を作ろう、男性の料理教室、バレンタインの料理教室、わくわく工作(たのしい小物づくり)、消防訓練、利用者懇談会、オーラルフレイル、みんなでコグニサイズ、館内装飾(春、七夕、クリスマス)、オンライン健康講座(骨・カルシウムセミナー)、チョコレートの世界へようこそ、スイカの種飛ばし大会、敬老の日記念ゲーム大会、毎日楽しい介護予防講座、(TJUP)、ミニ講座(ストレッチ、脳トレ、お口体操、栄養)、脳活トレーニング、スマホ悩み相談室、警察による注意喚起講話、なべさんの元気わくわく講座、トルト事前測定会、社協との多世代クリスマス会</p> <p>【未実施事業】</p> <p>多世代交流食堂、子ども大人も昔遊び、センター見学会、機能訓練室サポートボランティア養成講座、ふじみん食堂運営ボランティア養成講座、オンラインボイストレーニング、自宅のできる脳トレ</p> <p>センター職員の専門性やノウハウ、外部講師・利用者ボランティアの協力を活かし、多岐にわたる新規事業を展開した。特に大型イベント(納涼祭、介護予防フェスティバル、季節ごとのコンサート、年末の年越しそば振る舞い)の実施に力を入れ、多くの利用者から好評を得た。また、法人内のボランティアマッチングシステム「YELL」を活用し、センターだよりの折込作業やイベント受け等、多くのボランティアに活躍いただいた。さらに、令和6年度から実施した利用者懇談会では講座の申込方法や数に関する意見に対して内容の見直しと改善を行った。</p> <p>実生活に役立つ取組として、スマホ講座やスマホ悩み相談室、企業とのコラボによる健康講座を実施。朝の時間を活用した「朝活」も定着し、継続的な参加が見られている。そのほか、低栄養講座や調理実習、ファイブ・コグの実施、ものづくりを楽しむ「わくわく工作」、季節に応じた館内装飾やイベント、警察による防犯講座など、生活の質を高める多彩な活動を展開。地域との連携も一層進み、情報提供や共同事業の実現へと繋がった。</p>									

4

4 利用者の評価

区分	内容		評価
利用者の要望把握	(1) 利用者要望把握方法	利用者満足度アンケートの実施(年1回)、利用者懇談会(年2回)、ご意見箱(センター内に設置)、講座実施時のアンケート、職員の定期巡回	
	(2) 調査、会議等の内容	9月2日～15日の14日間で利用者満足度アンケートを実施 ①利用のきっかけ・時期・頻度・滞在時間・利用の理由・講座参加の有無②清掃状況・案内の分かりやすさ・質問要望の伝えやすさ・対応のスピード・公平性・個人情報保護の取組み・HPでの情報提供③職員の対応・服装・言葉遣い・説明④センターを利用した効果⑤総合満足度を調査した	
	(3) 調査、会議等の結果	アンケートは122件回収。満足度が高かったのは「衛生面・安全面」「館内外の案内、掲示物やポスター等のわかりやすさ」であった。対して「HPでの情報提供」は昨年よりも低かったため、HPやSNSでの情報発信に力を入れる必要がある。総合満足度は「満足」54.9%、「やや満足」38.5%、「どちらともいえない」2.5%、「不満」0.8%、「無回答」3.3%であった。	
利用者からの評価・要望・苦情等	(1) 良好とする評価	利用者満足度アンケート及びご意見箱より ・様々な講座があり、高齢になっても元気で毎日楽しく過ごせている ・職員の対応がとても良く、親切で話しやすい ・ためになる講座が多く、センターに通うのが楽しみ 等	3
	(2) 苦情・改善等の要望事項	利用者からの投書・電話・窓口にて(月次報告で市へ報告済み) ・自主グループの参加人数が減少しているため、広報による参加促進を希望する声があった。 ・機能訓練室のエアロバイクが故障している旨を張り紙で周知していたが、張り紙が移動されており利用者へ伝わっていなかったため「故障している」と指摘があった。 利用者満足度アンケートより ・様々な種類の講座を実施してほしい ・びんしゃん体操のカウント方法が職員によって異なる ・びんしゃん体操時の職員の服装(腕を上げた時にへそが見えた) ・職員の入替わりが多い 《対応措置》 市へ月次報告済みの改善要望については対応・是正をはかりご理解いただいている。また、苦情要望があった際は法人書式のひやりはつと報告書や状況報告書を作成し職員間で共有し早急に対応した。	

5 事業収支

(単位：円)

	指定管理者収支 (令和6年度)				市の収支				評価	
	年度計画額		収支実績額		令和6年度決算		令和5年度決算 (前年度)			
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額		
①指定管理 業務事業収支	収入	利用料金	319,000	利用料金	326,750	歳入	施設使用料		施設使用料	
		指定管理料	40,942,000	指定管理料	40,942,000		行政財産使用料		行政財産使用料	
		雑入	274,000	雑入	146,876		国庫支出金	10,239,076	国庫支出金	10,233,446
		自主事業からの充当	0	自主事業からの充当	0		県支出金	5,119,538	県支出金	5,116,723
							支払基金(2号)	11,058,202	支払基金(2号)	11,052,121
							1号保険料	9,419,950	1号保険料	9,911,970
		計	41,535,000	計	41,415,626	計	35,836,767	計	36,314,260	
	支出	人件費	25,201,000	人件費	25,878,584	歳出	修繕料	0	修繕料	497,200
		消耗品費	1,110,000	消耗品費	1,127,869		保険料	14,305	保険料	13,783
		光熱水費	2,376,000	光熱費	1,965,005		指定管理料	40,942,000	指定管理料	40,920,000
		委託料	5,613,000	委託料	5,638,880		業務委託料		業務委託料	
		賃借料	396,000	賃借料	415,220		土地・建物賃借料		土地・建物賃借料	
		通信費	685,000	通信費	206,297		その他		その他	
		保険料	445,000	保険料	664,797					
		修繕費	320,000	修繕費	196,110					
事業費(市指定事業)		100,000	事業費(市指定事業)	206,751						
公租公課		2,498,000	公租公課	2,872,386						
一般管理費(本社経費等)		2,566,000	一般管理費(本社経費等)	2,364,996						
旅費交通費		80,000	旅費交通費	94,668						
研修研究費		50,000	研修研究費	131,450						
広報費		25,000	広報費	7,706						
福利厚生費	70,000	福利厚生費	96,080							
	計	41,535,000	計	41,866,799	計	40,956,305	計	41,430,983		
	収支	0		△ 451,173	差引	△ 5,119,538		△ 5,116,723		
②市への納付金 ※納付金がある施設のみ	市への納付金	支出	0	支出	0					
③最終収支 (①-②)	収支	0		△ 451,173						
●自主事業 収支	自主事業収入	371,000	収入	469,740						
	自主事業支出	371,000	支出	691,013						
	自主事業収支	0	自主事業収支	△ 221,273						
分析	人件費比率【人件費/指定管理者事業支出】							61.8%		
	事業収支における経営分析			産休職員の引継ぎのため人件費が計画以上の執行となり最終収支がマイナスとなった。						
	一般管理費が、計画額と実績額で異なる理由									

6 管理運営全般

※すべて「適」で「3」。「4」・「5」・「否」とする場合は、必ず特記事項欄に理由を記載すること。

区分	確認内容	適否欄	評価
市との連携	1 市への報告、連絡、相談又は協議が適切に行われたか	適	3
	2 市からの指示等に対し適切な対応が図られたか		
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が適正で有効に配置されているか	適	
	配置実績 センター長1名、副センター長兼理学療法士1名、看護師1名、保健師1名、管理栄養士1名、総合職4名		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
平等利用	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか	適	
	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		
経理	2 利用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか	適	
	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		
施設・備品の維持管理	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか	適	
	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実行されたか		
その他	2 備品は台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか	適	
	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		
特記事項	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが適切な時期に提出されたか	適	
特記事項	センター内の鍵台帳と照らし合わせ、鍵が揃っているか毎月確認を行った。		

7 危機管理体制

※すべて「適」で「3」。1箇所でも「否」の場合は「1」。「4」・「5」・「否」とする場合は、必ず特記事項欄に理由を記載すること。

区分	確認内容	適否欄	評価
安全対策	1 危機管理マニュアルが整備されているか	適	3
	2 危機管理マニュアルの内容が職員に周知されているか		
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか		
個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	適	
防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか	適	
	2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか	適	
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	適	
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか		
特記事項	月に1回リスクマネジメント会議を実施し、安全対策等の話し合いを行っている。		

総合評価

【総合評価】 A:とても優れている / B:優れている / C:適正である / D:努力が必要である / E:改善が必要である

評価項目		評価	総合評価	保健・福祉施設
総合評価	施設の設置目的の達成	4	C	
	指定管理者の健全性	3		
	施設の有効活用	4		
	利用者評価	3		
	事業収支	3		
	管理運営全般	3		
	危機管理体制	3		

評価理由	新規登録者数、施設利用者数、機能訓練室利用者数は目標を上回った。また、休止していたイベントの再開やボランティア及び関連機関との連携による講座や新規事業の実施により新規利用者の獲得や定着に向けた努力をしている。以上のことから総合評価をCとする。
------	---

	前年度からの課題・改善事項	実施状況	次年度へ向けての目標・取組・改善事項
取組・改善案等	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防センター新規登録者の拡充 関係機関との多世代交流やイベントの開催 専門職講話に関連させた事業の工夫及び外部講師や協力者の登用 	<ul style="list-style-type: none"> 新規登録者259名（前年比40%増） 関係機関と協力した納涼祭やセンター祭りの実施 社協及び菜園ボランティア協力した多世代交流事業の実施（クリスマス会） ボランティアによる脳活トレーニングやスマホ悩み相談室の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者の更なる拡充 多世代交流事業やイベントの開催（霞ヶ丘保育所との連携） 多様な機関との連携及び外部講師や協力者の登用 市事業への協力

指定管理者自己評価

<p>(1) 評価期間の取組に対する評価</p> <p>① サービス向上に向けての取組 専門職による介護予防事業を軸に多岐にわたる事業を開催し、利用者の健康維持と介護予防の推進を図った。また、専門職による健康相談では、地域に密着した情報提供を行い利用者の健康意識向上に貢献した。さらに、介護予防フェスティバル(ワクワクウキウキセンター祭り)では高齢者あんしん相談センターや併設事業所と連携し、協働による多角的なプログラムの実施に取り組んだ。これにより専門職と関係機関が一体となり、より効果的な地域支援体制の構築に寄ることができた。</p> <p>② 業務の効率化に対する取組 各種事業やイベントの運営にあたっては、センター職員のノウハウやボランティア、外部講師の協力を得ながら業務の分散を図った。また、法人内のボランティアマッチングシステム「YELL」を活用し、イベントの受付や広報物の作業を協力いただいた。さらに、業務の属人化を防ぐためマニュアルの整備や議事録を作成し引継ぎの効率化に努めた。</p> <p>③ その他 利用者懇談会の開催や災害時を想定した消防訓練を実施し、安全・安心な施設運営に努めた。また、通0修了者を対象とした「通0同窓会」を継続開催し参加者同士のつながりを育んだ。さらに、利用しやすい環境づくりの一環として申込不要の事業を増やすとともに、人気のある講座については抽選制を導入するなど公平性にも配慮し、虚弱高齢者向けの事業も展開した。 畑や花壇の管理を担う菜園ボランティアは、ラベンダースティック作りやふじみ野市社協との連携によって多世代交流の機会も設けられた。令和7年度は、利用者一人ひとりが役割をもって主体的に活動できるような環境作りを推進する。その一環として活動の成果を発表する「利用者発表会」の開催を検討している。</p> <p>(2) 管理業務実施上の課題 職員の異動・産休・退職等により人員の変動が続いたことで一部の利用者に不安感を与えてしまい利用者満足度に影響があった。今後は職員の定着を図るため、働きやすい職場環境の整備や業務の平準化、支援体制の強化が課題となる。 また、イベント数の増加や地域連携の広がりに伴い、事務作業が増加しているため業務量のバランスを見直す必要がある。今後は、限られた人員で効率的に業務を進めるため業務プロセスの見直しを検討し、持続可能な運営体制の構築を目指す。</p> <p>(3) 次年度以降の取組 介護予防拠点施設としての機能を維持しつつ、地域のニーズに応じた事業等の実施により新たな集客を目指す。具体的には、体操を追加した脳トレ、オレンジフェスティバルの開催や耳の聞こえない方のための難聴講座や手話講座等。また、社会参加の促進及び地域住民同士の交流を目的とした手作り品マーケットの開催による地域活性化、ネイルボランティアの導入や教養講座、季節行事を通じて生活の質の向上を支援する。さらに、役に立つ情報や話題を取り入れたイベントの企画にも力を入れ、関連機関と連携しながら多世代交流事業も継続して行う。</p>
--